

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	コロナ禍において、地域とのつながりの部分では不足を感じるが、その「ほっとハウス」の名の通り、「温かく、ほっとする暮らし」になるよう実践はして来ているように思う。	「はじめに利用者ありき」「福祉の仕事は感謝の仕事」の法人理念を職員全員で周知して、利用者主体の運営に心がけ、居心地の良さを感じてもらうように、ひとり一人の利用者と同じ目線での関わりを大切にしていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	上記同様、コロナ禍において、思っていたほどの交流は持てなかったが、散歩時に顔を合わせたりする中で近所の方とは少しずつ関わりを持つ機会を持てたように思う。	コロナ禍の中、地域交流は実施困難になっていましたが、散歩に出かけた際は、近所の方と挨拶を交わしたり、裏のパン屋さんでパンを購入するなど地域との関わりに努めていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症になっても、地域の力になれる」という事を実践したく、「雑巾作り」を行ってきた。ある程度の量になったら地域の小学校に持って行くかと考えていたが、コロナもあり持って行くことはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で出た意見は、積極的に取り入れているつもりである。ボランティアの紹介もしていただいたが、感染防止の意味で入って頂く事は出来ていない。	入居者の入退院・事故報告をはじめ、入居者の畑作業や食事作りや洗濯物干し等に取り組む様子を写真で報告していました。地元島内の役員活動参加から公民館行事への誘いを受けたり、法人からの情報の発信に繋げていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターとは、積極的とは言えないかもしれないが、研修に出たり、地域の文化祭等の情報も頂きながら連携をとっている。利用者の参加できそうなものを検討するなどにはできている。	開所にあたり、地元市区町村との連携で新規入居者を募った際に直ぐに満床になった事で、介護を必要とされている家庭が多いことを知り、地元の行事参加を推進し、サービス内容の配信に積極的に挑んでいく姿勢が伺えました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修も実施しており、理解の維持向上も図っている。拘束は行っていない。	同法人内にかいごの学校も運営され、最新情報で学んだ介護ケアを展開され、身体拘束のないケアに取り組んでいました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の中で、客観視して職員を観て、注意を払っている。職員の心身両面の負担等にも注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自立支援については、日々意識しながら支援しているつもりであるが、学ぶ機会をさらに作ることは必要と感じる。後見制度については今の所、該当者がいないが、今後の事を考えると学ぶ必要はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明は十分に行ってきたつもりであるし、疑問点なども聞く機会を持ち、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話対応時などに、意見や要望を聞けるよう配慮しており、出た意見や要望は反映するようにしている。	毎月の請求書と共に、最近のご本人の様子を文章化し、ご本人の写真がプリントされた1枚も同封して郵送されていました。日々の暮らしぶりをご家族に配信し、信頼関係の構築に努めて、何でも言いやすい雰囲気作りに取り組まれていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を聞く機会を設け、出た意見や提案は、反映できるよう代表者に伝達している。	管理者は、職員間で「ありがとう」と互いに感謝の気持ちを伝え、認め合い、「お互い様」と謙虚な心でカバーし合える働きやすい職場づくりを目指して、職員の意見をしっかりと受け止める姿勢が伺えました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の日々の取り組みの様子や努力等、代表者に伝え、代表者もそこに関してフィードバックを行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や法人内での資格取得の機会などを設け積極的に職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修等で、外部の講師を入れてもらい勉強の機会や関係作りの機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前訪問時などにご本人の意向や不安なども聞けるよう努めているが、そこで全てを話すことは難しいと思うのでサービスを開始してからも、本音を言える関係作りは意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込みや施設見学、事前訪問などに家族の不安や困り事等の聴取は意識して行っている。また、入居してからも施設に入れた罪悪感等感じないような配慮や、面会に来やすいような配慮は意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険に詳しくなく、申し込みに来られる方も多いので、他にもサービスがある事も含めて説明しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	少しの支援があればできる事に目を向け、全てをやってもらう人という立場にならないように意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の様子を細かく伝え、本人の好きな物や生活歴などを聞き共に支えていく一員という意識で関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍において、外出など思っていたよりできなかった。主な家族以外のなじみの方の面会などが、ある時期からできなくなっている。	地元から入居された方ばかりなので、それぞれの思い出の場所への外出も考えていたのですが、コロナ禍のため実施できませんでした。今後の状況を慎重に見極めて取り組んでいきたいとお話でした。	感染症に配慮したドライブ等の実現で思い出の場所を身近に感じて頂いたり、面会時の万全な対策を工夫することで、面会実施への実現を期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係も含めての席の配置や、ユニットを越えてのお茶会なども行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	開所してから、退所した方が一人だけではあるが、その方は再入所の可能性もあったので退所後もケアマネを通し、経過を追っていました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ほとんどの方が、在宅からの入居や入院からの入居であり、意向を聞き今までの暮らしに近い生活になるよう意向の確認は行っている。また、家族等から今までの生活歴なども聞くことで本人本位を意識している。	特に意思確認の困難な方には、本人以外の情報から「こういう人」と決め付けずに「その人を理解する」という視点で、根拠のある支援に繋げていました。その後も職員全員で周知を図り、「利用者ありき」の理念の実現に向けて努力していました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や在宅時のケアマネ、また可能であれば本人から生活歴などを聞き、今の生活とのギャップの把握に努め、その差を縮めることを意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その方によっては、自分一人の時間を大切にしたい方もいるので、個々に合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子を職員から聞いたり、記録から得たり、本人はもちろん家族からも意向を聞いて計画に反映している。	忘れかけた能力を発揮して生活ができるように自分らしさと自信、安心を取り戻せるように、統一した支援の継続でその成果を出していました。引き続き関係者の情報やご家族に安心してもらえるような介護計画作成の取り組みを望みます。	開所して1年が過ぎた今、改めてご家族と向き合う時間や機会を設けるなど、信頼関係の構築が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、計画に実践の有無や様子など記録に残しており、その情報は共有できているように思う。日々の記録がモニタリングやアセスメントの材料になり、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ禍ではあったが、その中でもできる事でニーズに対応できるように取り組んでいるつもりである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で、地域に出たり呼んだりする事が思っていたよりできなかったが、包括支援センターから文化祭の開催などの情報を頂き、作品の出展を利用者に伺うなど、できる範囲で支援するようにしてきたつもりであるが不足は感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診日以外にも、体調の変化時や本人、家族の希望時は受診を実施してきた。常勤の看護師がいない分、不安なく過ごして頂くために適切な医療を受けられるよう意識してきたつもりである。	入居の際に普段かかっていたかかりつけ医の情報を受け、馴染みの病院への通院を進めていました。2か月に1度、島内診療所から往診に来て頂き、週に1度訪問看護で体調管理を行っていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師には適時、報告連絡相談してきており、往診日までの受診や看護が途切れることなく継続できるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族も交えて今後の生活を見据えたゴールを共有し、適切な治療やリハビリなどを受け早期の退院に向け努めている。情報交換も退院に向けた対応もできる限り迅速に実施してきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	開所から1年の事業所であるので、まだ重度化や終末期の対応に事例はないが、今後そのような状況になれば、ご本人・ご家族と事業所の双方で共有しながら、終末期の支援を共に実施していけるようにしていきたい。	高齢入居者を抱えたグループホームでの終末期の対応について、ご家族は特に心配されています。引き続き日頃から健康状態、体調の変化等を伝えていき信頼関係を築き、その時々家族の思いを聞き取った対応を望みます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修などを行い、急変時や事故発生時に慌てることなく対応できるように努めている。やりすぎという事や、ここまでやっておけばという事はないと思うので今後も継続し実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震や水害などの例が県内にもあったことから、職員の中でも意識は高まっているように思う。これも意識が薄れる事のないよう、定期的に確認しあい対応できるようにしていきたい。地域との協力体制の構築は課題であるように思う。	年間計画で防災訓練を6、11、2月に計画し、2月は夜間想定での避難訓練を行っていました。今後は、コロナ禍の中大変ですが、身近に感じた県内災害を振り返りながら、特に地元地区の協力体制の確立に向けた取り組みが期待されます。	地元の消防団や地域住民との連携で、協力体制の構築を図り、訓練実施に向けての取り組みを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	基本とは思いますが、人格や価値観、プライバシーを尊重し、言葉かけや対応を行っています。	1年前の開所当時は特に、急な環境変化で不安になっている利用者の気持ちに寄り添った対応を心掛けていました。その中で、本人らしい暮らしぶりを見出す努力を重ね、今は自分の出来る仕事を見つけられて生き生きと暮らしていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	これも基本とは思いますが、意識して働きかけています。小さなことですが、起きる時間や入浴等も本人の意思を聞き尊重しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	上記にも記入しましたが、小さなことも本人の意思を尊重し希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服を選ぶこともそうですし、室内履き等を購入する時も職員が選ぶのではなく、希望を聞くなどしています。髪を伸ばしたいという希望等にも応えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自宅では奪われていた方も多いですし、特に女性は今まで妻として母として家の台所を守ってきた方々であるので、今も職員の間目と手があればできる事は積極的にを行っています。	2か月に1度の誕生会をはじめ、各行事食でおしるこ作り、クッキー作り、ちらし寿司といったメニューをそれぞれの出来る台所仕事を協力し合って取り組んでいる様子が写真に収められていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嗜好なども本人や家族から聞き、今まで食べたり好んで飲んでいたものなどを提供できるようにしています。一番の楽しみだと思うので。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できる事は行ってもらいながら、毎食後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	在宅から入居になった方も多いため、自尊心も尊重しながら実施しています。その方のパターンの把握にも意識を向け、支援をしています。	日中はリハビリパンツを使用している方が1名、夜間は2名ですが、おむつを使用している方はいませんでした。個々の尿意をパターンの的にチェックし、自尊心を傷つけないように誘導するなど自立に向けた支援を行っていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服薬だけでなく、食事や飲み物等でも働きかけは行っている。また、体操や散歩なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	タイミングだけでなく、湯温等も一人一人の希望に合わせて実施している。	週に最低2回以上入浴してもらえよう、また個々の希望とそのタイミングに合わせた入浴実施を心がけていました。湯加減もその時々利用者の言葉を聞き取り、気持ち良く入ってもらえるように配慮していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの今までの生活パターンの把握に努め、室温や寝具なども今までの生活に近づけるよう配慮している。休みたい時には休めるようにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更時も職員全員が把握し支援できるよう努めている。また、内服後の様子なども観察し、看護や主治医に伝え、副作用の有無にも対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までやってきたことや、楽しみ、今でもできる事に着目し、施設に入居したことで、それができなくなってしまうように意識して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑を見たい、窓から見える草が気になる、散歩に出たい等の希望には、可能な限り応えるようにしている。普段行けないような場所には、コロナもあり支援できていない。	コロナ禍の中、可能な限り近所を散歩して、戸外に出向き、畑づくりで、ミニトマト、きゅうり、玉ねぎ、水菜といった利用者個々の経験を生かした野菜作りを行ない、それぞれに生き甲斐を持てる日常的な支援が行なわれていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	生活の中で欲しい物、必要な物がある時は、使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時は電話もできるよう支援しているし、ご家族から電話がきて変わる事もある。友人や親せきに手紙を出す方もおり、切手を購入したり投函する代行も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温の調整だけでなく、テレビなども必要以上に大きな音の設定にならないよう注意している。また、職員自体が物的環境として作用する事も意識している。また、生活の場としても意識して生活感や季節感を大事にしている。	各ユニットに入るとリビングルームが広がり、正面突き当りの広い壁上方に大きなテレビが設置され、その片側には対面式のキッチンが整備され、天井は高く和風調なライトがつけられていました。各居室に入る手前の格子戸などは木のぬくもりが感じられ、明るくて今風の近代的構造になっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りの時間も大切に、自由に遠慮なく自室で過ごせるような配慮や、気の合った利用者同士で各々の居室でお茶会やお話会等もできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時から、馴染みのある物を取り入れるなど少しでも居心地が良くなるよう工夫している。	3名ずつの共有スペースにトイレと洗面台が設置され、気の合った仲間と利用できるように配慮され、そこから居室に入れるようになっており、自宅から馴染みある家具や遺影を持ち込むなど居心地の良い、安心できる部屋となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	可能な限り自立して過ごして頂けるよう工夫に努めている。		